

純情小曲

欲望だけが僕の中から飛び出して
目の前でけたけたと嫌らしく笑う
僕はそれを嫌悪する、すなわち僕は嫌悪される

自分というのが分からない、ああ裏切者
グロテスクな純情が僕の身体を愛撫して
僕はその感応と恐怖に打ち震える

何で目を上げることさえ出来ないのか
僕はお前を嫌悪する、淫らな純情よ
可愛い彼女から肌の匂いだけを運んでくるお前を

僕から飛び出したニヤニヤ笑いのお前は
これ見よがしにと彼女の肢体を撫で回す
僕はすっかり嫉妬に心臓をどきどきさせた

あんな奴とは無関係に僕は彼女が好きなのだ
お前みたいな奴はどっかへ行っちまえ
そうすれば・・・そうすれば・・・

(1982.6.6)